

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：服部 卓也

事業名	連続立体交差事業 阪急電鉄京都線・千里線（淡路駅付近）	事業区分	連続立体交差	事業主体	大阪市
起終点	自：大阪市東淀川区柴島1丁目 至：大阪市東淀川区上新庄1丁目 自：大阪市東淀川区柴島2丁目 至：吹田市清和園町			延長	7.1 km
事業概要					
<p>本事業は、阪急電鉄京都線・千里線の淡路駅付近の7.1kmにおいて、鉄道を高架化することにより17か所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。また、淡路駅周辺地区では土地区画整理事業と一体整備により効果的なまちづくりを進めるものである。</p>					
H8年度事業化		H6年度都市計画決定		H8年度用地着手	
H20年度工事着手					
全体事業費	約2,326億円	事業進捗率	約58%	供用済延長	— km
計画交通量	219,636台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 4.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 695/2,573億円 事業費：692/2,570億円 維持管理費：2.7/2.7億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 3,021/3,021億円 移動時間短縮便益：2,803/2,803億円 走行経費減少便益：169/169億円 交通事故減少便益：49/49億円	基準年	令和4年
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.1~1.4（交通量±10%） 事業費：B/C=1.1~1.2（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.1~1.3（事業期間±20%） (残事業) 交通量：B/C=4.0~5.3（交通量±10%） 事業費：B/C=4.0~4.8（事業費±10%） 事業期間：B/C=4.2~4.5（事業期間±20%）</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・交通流の円滑化に伴う周辺環境の改善（騒音低減、排気ガス削減） ・災害時における避難路及び緊急車両の進入路の確保などの防災性の向上 ・市街地整備の促進及び沿道土地利用の高度化（淡路駅周辺） ・高架下利用の促進 ・広域的な道路ネットワークの充実（都市計画道路等の整備促進） 					
関係する地方公共団体等の意見					
特になし。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
淡路駅周辺においては、連立事業と併せて実施している土地区画整理事業により、従前の狭隘な道路などの改善や、商店街の再編によるにぎわい創出が図られている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約99%、事業進捗率約58%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
令和3年3月までに高架化工事に必要な事業用地の取得が完了し、令和10年度の高架切替、令和13年度の事業完了に向けて高架化工事や、残る関連街路の整備に必要な用地取得等を進める。					
施設の構造や工法の変更等					
今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

